

(1)

平成30年6月13日 文化庁訪問

出席者

(文化庁) 文化財部長 山崎 秀保
記念物課長 大西 啓介
美術学芸課長 圓入 由美
(名古屋市) 市長 特別秘書 東京事務所長 名古屋城総合事務所長

【市長発言】

- マスコミや議員から文化庁と市との関係がうまくいっていないと聞いている。何が悪いからお聞きしたい。
- 西川流の家元より、これだけ資料が豊富な復元は世界に例がない。世界にアピールすることが必要だと言われている。そのために何かいい方法があればお聞きしたい。
- バリアフリーについては、歴史的建造物の復元ということをおわかっていない人が多い。
新技術での対応としては、歩行支援機が有力。ロボットで上がる方法もある。階段の実物模型を作って検証する。階段を上る技術は普通の家で活用できる。歩行支援機を使った「おもてなし合力隊」がいいと思う。
車いすごと階段を上る技術もある。この技術は地下街での災害時にも活用できる。
まだ4年ある。国際コンペも行い克服する。今年度2000万円の予算がある。12社に100万円ずつ。その他は国際コンペに使う。
外からはしご車の技術を活用する方法もある。車いすで脱出できる500kgまで対応できるはしご車がある。少なくとも1階までは保証する。スロープで地下まではいける。1Fまでならばリフトで上がるのも良い。
- 2020年12月までには成し遂げなければならない。本当は2020年にしたかったが、議会との関係でできなかった。

(文化庁発言)

- ④ ○ [REDACTED]
- ⑤ ○ [REDACTED]

○以下の3点をしっかりとやって欲しい。

- ・石垣の調査を着実に進め、結果を出す。
- ・天守閣を解体する工法等、やり方が史跡を傷めないようにする。
- ・木造天守を建てる際にも、史跡を傷めないようにする。

○

○

地元の学術委員会が了解したもので、文化庁へ提出してください。

市長国家提案【文化庁】＜平成30年7月26日(木)＞面会記録

●面会記録（文化財部長、記念物課長）

- ・ 予算要望について、名古屋城の整備には、引き続き力を入れていく。三浦先生のCGのように少しずつ整備していく。特に太鼓櫓は外から見える。写真も残っており、是非復元したい。
- ・ 天守閣木造復元については、石垣部会とよく話し合って結論を出すように言われているが、石垣部会では、北垣座長は「いい資料をいただいた」と言った。一方で、千田先生は「承認できない」と言っている。
- ・ 石垣の整備計画の作成や研究センターの創設を、文化庁から言われているが、それについては早急にやっていく。また、竹中工務店が整備する予算の中に、石垣部会の整備費用として45億見込んでいる。石垣を外すことも議論になるが、これだけの予算があることは凄いことである。
- ・ 上に天守閣を残したままでは危ない。IS値0.14とあまりにも低い。
- ・ 下で調整することも危ない。労働安全衛生法上も問題。早く除去することが必要。
- ・ 千田氏は今日の朝日新聞でも、2年かけて石垣保全工事をするべきと言っている。これでは、2022年12月の期日は守れない。議会もこの期日で了解してもらっており、これは実現しなければならない。是非お願いしたい。
- ・ 文化庁が石垣部会との仲介してもらえないだろうか。
- ・ バリアフリーの技術について、障害者団体にも説明している。来年度には実際の階段の模型で実験する施設を設ける。

(文化庁より)

- ⑤ [REDACTED] 地元の専門委員会には十分に説明して理解してもらうこと。⑥ [REDACTED] 文化庁としては従来よりできる限りサポートしており、今後も引き続きサポートしていく。

以 上

(4)

市長文化庁訪問＜平成 30 年 8 月 3 日(金)＞面談記録

●面談記録（文化庁次長、調査官（2人））

- ・文化庁からは石垣部会の了解をとるように言われている。石垣部会が言っているのは、天守台北面の孕み出しが危ないので、**積み直してくれということ。**私も**以前三浦先生から天守台は濃尾地震で無傷だったので、**積み直しはしない方がいいと認識していた。しかし、505億円の予算の中には45億円の石垣修復が含まれている。今のところ積み替えるかどうかは、さらに調査を進めて検討するとしている**が、状態が悪いので、きちんと積み替えると言えれば了解を得られる。**
- ・時期の問題はある。天守の荷重は石垣にはかけない。石垣をやってから天守では時間がかかり過ぎる。石垣の計画を見直して1か月ぐらいで石垣部会の先生に説明する。名古屋市民の熱い期待がある。郷土愛がある。
- ・**福祉団体も中日新聞も復元という概念がよくわかっていない。木造新築という言い方をする。**
- ・現天守閣の耐震性が極めて低い。5大都市の建築物で最も低い。この下で石垣調査を行っているが、労働安全衛生法上、刑事的な問題になりかねない。延々と調査を行うのは危ない。議会からも2022年竣工で了解されており、スケジュールを守る。名古屋城は復元のフロントランナー。**ゆっくりやるとコンクリートの改修になる。これは世界の大恥。**先輩が残してくれた豊富な資料で本物の天守を今後1000年つないでいく。これは、任務だと思っている。
- ・バリアフリーについても様々技術があり、企業からも協力すると言われている。万里の長城やコロッセオにエレベーターがついているが、本質的なところには付けていない。
- ・**先日木曾先生と会った。世界に発信したいと伝え、日本イコモスの会長に話してくれる。**
- ・石垣部会の理解という大西課長との約束はまもる。是非10月の審議会を通して欲しい。
- ・学芸員の体制が弱かったのは確か。学芸員を増員し、調査研究センターを整備して行く。

⑦(文化庁次長)

石垣部会の理解を得ることが大切。今までも技術的助言を行ってきた。これからも続けていく。

以上